

新型コロナワクチン予防接種について(説明書)

コロナウイルスは、人の目や鼻、口から侵入し、2～3日の潜伏期を経て、発熱・咽頭痛・咳などの症状が現れます。かかっても無症状の場合がありますが、基礎疾患がある場合は重症化のリスクが高くなり、高齢者での重症化率、致死率が高い感染症です。

予防接種の有効性

新型コロナワクチンの接種で、約70～95%の発病を抑えることができ、重症化や合併症の発生を予防する効果は、発症予防効果より高いことが確認されています。

予防接種を受けることができない方

1. 接種当日、明らかに発熱のある方(通常 37.5 度以上)
2. 重い急性疾患にかかっている方
3. ワクチンに含まれる成分によって重度の過敏症の既往歴のある方
4. コロナワクチン接種後に血小板減少症を伴う静脈もしくは動脈の血栓症を起こしたことがある方
5. 毛細血管漏出症候群の既往歴のある方
6. その他、医師が予防接種を行うことについて不適当な状態と判断した方

予防接種を受ける際に、担当医と相談が必要な方

1. 抗凝固療法を受けている方、血小板減少症または凝固障害がある方
2. 過去に免疫不全の診断を受けた方、近親者に先天性免疫不全症の人がいる方
3. 心臓、腎臓、肝臓、血液疾患などの基礎疾患がある方
4. 過去に予防接種を受けて、接種後2日以内に発熱や発疹などのアレルギーが疑われる症状が出た方
5. 過去にけいれんを起こしたことがある方
6. ワクチンに含まれる成分によってアレルギーが起こるおそれがある方

副反応

(1) 比較的多くみられる副反応

接種部位の痛み、頭痛、関節や筋肉の痛み、倦怠感、寒気、発熱等

(2) まれに起こる副反応

ショック、アナフィラキシー様症状(全身性の皮膚・粘膜症状、喘鳴、呼吸困難、頻脈、血圧低下等)

(3) ごく稀におこる副反応(ワクチンの種類により違います。)

軽症の心筋炎・心膜炎、血小板減少症を伴う血栓症、毛細血管漏出症候群、脱髄疾患を発症した例が海外で報告されています。

接種後の注意事項

1. 予防接種後24時間は副反応の出現に注意し、観察しておく必要があります。特に接種直後の30分以内は急激な健康状態の変化に注意してください。
2. 接種後は、接種部位を清潔に保ち、接種当日は過激な運動や大量の飲酒を避けてください。
3. 予防接種当日の入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすらないようにしてください。

ワクチン接種による健康被害の救済制度

定期接種を受けたことにより、健康被害が発生した場合には、救済給付を行うための制度(予防接種健康被害救済制度)がありますので、本県市役所健康福祉部健康支援課へご相談ください。

※この説明書は、新型コロナワクチン予防接種に共通する内容ですが、接種するワクチンにより、違いがありますので、詳しくは接種の際に医療機関にてご確認ください。(R6.8月作成)